

近藤頼巳

旧名

小林頼巳

こんどう・よりみ

こばやし・よりみ

作物学者、農学博士、東京農工大学学長、勲二等旭日重光章

経歴

生:明治41年(1908年)1月9日、広島県芦品郡(現福山市)生まれ (出典3)

没:昭和63年(1988年)9月19日、享年80歳

大正15年(1926年)	18歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業<大正14年4年修了>
昭和6年(1931年)	23歳	東京帝国大学農学部農学科卒業
昭和6年(1931年)	23歳	農林省農事試験場鴻巣試験場(埼玉県北足立郡鴻巣町)技官 (出典2)
昭和9年(1934年)ごろ	26歳ごろ	農林省農事試験場技官として冷害の研究
—	—	農林省開拓研究所
昭和22年(1947年)ごろ	39歳ごろ	荻原豊次の育苗法に「油紙保温折衷式苗代」と命名
昭和29年(1954年)	46歳	東京農工大学農学部教授
—	—	農学博士
昭和41年(1966年)2月10日～ 昭和47年(1972年)2月9日	58～ 64歳	東京農工大学学長(第4代)
昭和47年(1972年)2月9日	64歳	定年退官
昭和54年(1979年)	71歳	勲二等旭日重光章

生い立ちと学業、業績

農林省農事試験場技官を経て、昭和29年(1954年)に東京農工大学農学部教授となる。昭和41年(1966年)から昭和47年(1972年)まで学長を務め、退任と同時に定年退官した。

専門は作物栽培学で、イネの冷害とそれに伴って発生するイモチ病への対策を研究し、長野県の農民の荻原豊次が考案した「油紙保温折衷式苗代」が、イネの成長を早め冷害防除に有効なことに注目し、科学的理論の裏付けを行って普及に尽力した。

これは、学者と農民との協力による新技術の優れた事例として、注目された。

著書に、『水田農業の新技术』、『イネの多収穫栽培』などがある。

昭和54年(1979年)に勲二等旭日重光章受章。 石井和佳(昭和25年卒)

著 書

書 名	制作／発行	日 付
『水稻品種の冷害抵抗性に関する生理学的研究』	—	昭和27年
『米作増収と営農の発展—豊かな農村の建設のために—』	博友社	昭和31年
『最新作物栽培事典』	博友社	昭和33年
『イネの多収穫栽培 深耕・多肥・密植』	農山漁村文化協会	昭和35年
『水田農業の新技术』	—	—

出典1:『現代日本・朝日人物事典』、700頁、朝日新聞社編刊、1990年

出典2:『福山学生会雑誌(第72号)』、103頁、福山学生会事務所編刊、昭和6年7月31日

出典3:『中国年鑑54年版別冊会社録・人名録』、179頁、中国新聞社編刊、昭和53年11月15日

2005年4月19日更新●2006年6月23日更新:タイトル●2008年1月30日更新:経歴●2008年7月15日更新:経歴・出典
●2009年10月29日更新:経歴・著書●